

就実大学大学院・就実大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

部局名（学部又は事務部）：大学院

学科名：人文科学研究科

計画：平成30年5月7日／中間報告：平成30年9月30日／最終報告：平成31年3月31日

中期目標	中期計画	部局及び学科における30年度計画と実行計画		計画達成状況	担当者評価	学長評価
		平成30年度計画	平成30年度実行内容			
	中期目標に対する中期計画の具体的項目	各部局で、具体的な取組・実行内容に基づいて計画実行する（具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する）	(平成29年計画の具体的実行内容を具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する)	年度の中間及び年度末に計画の達成状況を評価する。 該当する項目について、セルを分割して、上段に中間報告、下段に最終報告を記載する。		
[理念・目的] 教育の理念・目的に基づき、人材育成の目的、その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表するとともに、それを実現するために将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を明確にする。	理念・目的を適切に設定し、その適切性について、定期的に検証する。	昨年の概略的チェックに続き、より細かいレベルの検証をおこなう。	左記に同じ。	検証作業中	△	△
	理念・目的を及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	○	○
	理念・目的を及び学部・研究科の目的を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定する。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置する。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中 平成31年度初頭に発足予定	△	△
[内部質保証] 教育の理念・目的を実現するためには、内部質保証システムを構築し、恒常的・継続的に教育の質の保証及び向上に取り組む。	内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備し、内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	—	—
	内部質保証の方針及び手続に基づき、自己点検・評価を改革・改善に繋げる内部質保証システムが有効に機能しているか検証する。	大学院独自で実行可能な検証の在り方を検討する。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。 同上	△	△ ×
	教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	—	—
	内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	大学院独自で可能な取組みを検討する。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。 同上	△	△ ×
[教育研究組織] 教育の理念・目的を実現するためには、適切な教育研究組織を整備する。	教育研究組織を適切に設定し、学術の進展や社会の要請との適合性について、定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置する。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中 平成31年度初頭に発足予定	△	△
[教育課程・学修成果] 教育の理念・目的を実現するためには、学位授与方針（ディプロマボリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラムボリシー）を明示し、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学修成果の修得状況を把握し評価して、学位授与を適切に行う。	教育目標に基づく学位授与方針を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、教職員及び学生に周知し、社会に公表する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	教育目標・学位授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、教職員及び学生に周知し、社会に公表する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証する。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置する。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中 平成31年度初頭に発足予定	△	△
	教育課程の編成・実施方針に基づき、学部・学科に応じたカリキュラムマップやツリーを作成して、必要な授業科目を適切に設定し、接続性や順次性のある教育課程を体系的に編成する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた大学院教育を行う。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	教育目標の達成に向けた授業形態、学生の主体的参加を促す授業方法（アクティブラーニング）など、学修指導を充実する。	既に各指導教員レベルで実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	教育効果を上げるための多様な手段の導入と情報ネットワークを利用した教育システムへ展開し、キャンパス外教育を推進する。	既に各指導教員・補助教員を通じて実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式で作成し、公表する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○
	シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づく授業を行う。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。 同上	○	○

厳格な成績評価を実施するシステムと制度を構築し、学生学修力の向上と教育の質の改善を図り、単位制度の趣旨に基づく成績評価、単位認定を適切に行う。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学修成果を測定するための評価指標（ループリック評価など）を適切に設定し、学位授与（卒業・修了認定）を適切に行う。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
授業評価アンケートや相互授業参観などにより、教育成果について定期的な検証を行い、その結果を授業の内容及び方法の改善に反映させる。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置し、そこで今後の検討課題とする。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			平成31年度初頭に発足予定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育内容・方法等の改善を図るために、組織的な研修・研究の機会を設ける。	基本的には全学活動に包摂されるが、大学院独自で行って意味のある方策についても検討する。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
学位授与にあたり学位論文審査の基準を適切に設定し、学生に明示する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【学生の受け入れ】 教育の理念・目的を実現するためには、学生の受け入れ方針を明示し、その方針に沿って適切な入学者選抜制度により公正な受け入れを行う。（留学生を含む）	求める学生像、学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、受験生に周知し、社会に公表する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>
				同上	<input type="radio"/>
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
適切な定員を設定し、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。	現在の教育水準を落とさずに、在学生を増やす方策を模索する。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置する。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			平成31年度初頭に発足予定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【教員・教員組織】 教育の理念・目的を実現するためには、求める教員像や教員組織の編制方針を明確にし、それにに基づく教員組織を整備するとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を実施して絶えず教員の資質向上に取り組む。	教員に求める能力・資質、教員構成、教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在など、各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示にする。	大学院で独立した教員採用が出来ない本学のシステムでは、対応不可能。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>
				同上	<input type="radio"/>
教育課程・編制方針に基づき、教育研究活動を展開するため、授業科目と担当教員の資格・適合性を明確にして、教員組織を適切に編制する。	大学院で独立した教員編成が出来ない本学のシステムでは、対応不可能。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	
教員の募集・採用・昇格等に関する規定及び手続きを明確にして、適切な教員人事を行う。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FD活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上を図る。	全学活動に合わせて、大学院独自で実行可能な取組みを検討する。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
教育研究活動等、教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	学部において行うシステムとなっており、大学院独自の取組は不可能。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【学生支援】 教育の理念・目的を実現するために学生支援に関する方針を明確にし、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、修学支援、生活支援および進路支援を適切に行う。	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援など、学生支援に関する方針を明示する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>
				同上	<input type="radio"/>
学生学修意欲喚起や学修時間の確保に向けての学修e-ポートフォリオの導入で、学修支援を推進する。	既に各指導教員・補助教員レベルで、十分な支援を実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	
留年者及び休・退学者の状況を把握し、低減に向けての部局での方策を検討し、適切に対処する。	既に実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
リメディアル教育や高大連携による入試前教育に関する支援体制を整備し、適切に実施する。	既に教員の個別指導レベルで実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
障がいのある学生に対する支援体制を整備し、修学支援措置を適切に行う。	既に必要な施策はすべて実施。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			同上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
奨学金等を通じた経済的支援の充実を図り、安定した学生生活の実現に努めます。	既に可能か協議します。	左記に同じ。	左記に同じ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

			同上	○	○
心身の健康保持・増進及び安全・衛生へ配慮するとともに、学生の人権を保障し、ハラスメント防止のための措置を適切に行う。	研究科長・指導教員・補助教員以外の教員が、院生により自然にコミットしていく環境整備を模索。	左記に同じ。	検討部会発足後に、方策を論議する予定。	△	△
			同上	△	×
キャリア支援に関する組織体制を整備し、進路選択に関わる指導・ガイダンスを実施する。	本学のシステムでは、大学院独自の対応は困難。	左記に同じ。	左記に同じ。	—	—
			同上	—	—
学生支援の適切性について定期的に点検・評価し、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	現状を定期的に点検して改善策や将来像を検討する部会を設置する。	5月中に部会発足予定。	検討部会規程作成中	△	△
			平成31年度初頭に発足予定	△	△
【社会連携・社会貢献】 教育の理念・目的を実現するためには、社会連携・社会貢献に関する方針を明確にし、その方針に沿って社会との連携に配慮し、教育研究成果を広く社会に還元する。	社会へのサービス活動、地域交流・国際交流事業への積極的参加など、学外組織との連携協力による教育研究を推進し、教育研究成果を適切に社会に還元する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	—	—
	グローバル化促進として、留学生の積極的な受け入れ、さらに外国人研究者活躍の場を広げ、本学の構成員の国際的活動能力の向上を図る。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
			同上	—	—
【平成30年度大学院・大学の主要事業計画と改革の重点事項】					
〔特色ある取り組み〕 社会を意識して学び、学生自らが成長を実感できる教育改革、充実した学生生活支援、新たな価値を創出する地域連携活動などを通じて、本学の魅力や教育・研究の質を高め、個性を磨いて差別化を図るために、特色ある大学改革を推進する。 （1）組織的な大学改革への取り組みと活力ある組織への転換による教学ガバナンスの強化 （2）3ポリシーを具現化して学生の成長を促進する教育改革と多様性豊かな人材育成の推進 （3）学内環境の整備と学生生活・修学・キャリア支援体制の強化による学生の満足度向上 （4）入試・奨学金制度改革による優秀な学生の確保と効果的な入試広報活動の充実 （5）教員研究力・地域貢献力の向上・活性化によるイノベーション創出とグローバル化推進	①学内外の情報収集・解析に基づく戦略的な大学改革を推進し、エビデンスの可視化、周知と相互理解を図り、組織的活動をPDCAサイクルで活性化する。 ②センター・委員会組織の機能強化、全学的な組織・制度改革を検討し、教職協働を促進して、中期目標計画を着実に実行する。 ③事務組織の充実・効率的な運営、FD・SD活動の活性化と学内外での教職員研修の推進による資質の向上を図る。 ④実効性ある教職員業績評価制度を推進して、活力ある組織への転換を図る。 ⑤ポツンに基づく教養等の教育カリキュラムの体系化、スリム化など抜本的な改革を実施する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
				同上	—
	②ICT教育やアクティブラーニング、PBLなどの主体的学びによる教育の質転換を図り、特色ある教育で学生の成長を推進する。 ③学部混合型初年次教育プログラム「スタートアップ就実」の導入、社会を意識した学び、学修支援体制を強化する。 ④基礎力診断を継続実施して、多様な学生の個性・強みを伸ばし、時代の変化にも適応できる実地有用の人材を育成する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
				同上	—
	①学生生活実態調査に基づいて、大学施設の計画的な整備、学生の活動を支援するキャンパスアメニティを充実させ、学生の満足度向上を図る。 ②キャリア支援の強化、学生相談室によるメンタルサポートと障がい学生への支援体制を強化、e-ポートフォリオの運用促進などによるきめ細かな学生支援を推進する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
				同上	—
	①高大接続に対応した新入試制度や特待生制度を見直して優秀な入学者を確保するとともに、奨学金制度のさらなる充実、学生寮を整備するなど、経済的に修学困難な学生への支援を強化する。 ②ホームページや大学ポートレートの充実、教員の高校訪問の機会を増やして本学の強みや特色を根気よく伝えていくなど、入学志願者の増加につながる戦略的な入試広報活動を展開する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
				同上	—
	①教員研究力の向上・活性化を図り、本学の魅力や強み・特色を明確に打ち出して広報活動を展開し、新たな価値を創出で地域活性化に繋がる全学的な研究プランディング事業に取り組む。②大型補助金の戦略的獲得、外部研究資金獲得の促進、学部横断共同プロジェクトや産学官連携促進、学内競争的資金制度や褒賞制度を充実し、若手研究者の支援体制を強化する。③学生の海外留学や留学生を増やすための支援体制を整備・強化し、グローバル化を推進する。	全学活動に包摂。	左記に同じ。	左記に同じ。	—
				同上	—

◆中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況の運営について◆

(1)平成30年度計画は、就実大学大学院・就実大学中期目標・計画の具体的な取組・実行内容に基づいて計画する。中期目標・計画に関連して、新たな取組がある場合は項目を増やして記載する。

(2)平成30年度実行内容は、平成30年計画の具体的取組・実行内容を具体的にかつ定量的(数値的)に記載する。

(3)計画達成状況は、年度途中(9月末)、年度末(3月末)に計画の達成状況を部局長及び学長が評価し、次年度計画の参考とする。